

学生記者が行く!

発見 きらめきの人

このページは学生記者がアイデアを出し、取材や撮影を行い編集するページです。

【発見:きらめきの人】のコーナーでは、学業・部活・サークル・イベントなど、さまざまな分野で“キラリ”と輝く仲間を紹介します。



Vol. 73

今回のきらめきの人は金子巧さん(律4年)です。埼玉県越谷市をホームタウンとし、B2リーグに所属する男子プロバスケットボールチーム、「越谷アルファーズ」のスタッフとして活動しています。

【新たなことへの挑戦】

金子さんが活動を始めたきっかけは、ある飲食店で越谷アルファーズのスタッフと仲良くなったこと。昨年10月から活動を始め、試合時のコート整備などを行っています。金子さんは、活動を始める前は日常生活に物足りなさを感じていたと当時のことを振り返ります。そして、越谷アルファーズを通じて多くの人と出会えたことや、自分のやりたいことを見つけれられたのは自分の財産になったといいます。野球、ダーツ、ギターなど多趣味な金子さん。様々なことに挑戦する前向きな姿勢が印象的でした。

面白そうだと感じたことには、思い切って挑戦することが大事だと語ってくれました。

【メッセージ】

色々な場所に行き色々な人に出会うことによって、繋がりも増え、自分のしたい事を見つけられました。とりえず行動、行って喋って仲良くなるのが大切だと思っています。

現在、越谷アルファーズのハーフタイムでパフォーマンスをしてくれる人を募集しています！ また、11、12月頃に獨協大学で試合をする予定なので是非見に来てください！

わたしたちが発見しました♪

今回の取材は、越谷を盛り上げたいという金子さんの熱い思いが伝わるものでした。好奇心を持ち、色々な人と関わることが学生生活を豊かにする一つの方法だと感じました。今後の越谷アルファーズの活躍に期待しています！

宇野 季咲良(営3年)・目谷 望実(営3年)

Vol. 74

今回は、大学の夏季休業中に「日独学生リーダー交流事業」に参加した田宮佑菜さん(独2年)を紹介します。

【事業に参加したきっかけ】

もともと、地元で町おこしボランティアをしていたことがあるという田宮さん。派遣事業や、大好きなドイツに関わることができる企画などを探していたところ、この事業と出会ったそうです。事業のテーマは「若者の社会参画とボランティア」。自身が興味を持っていることと合致したため、参加を決意しました。



【活動を通して学んだこと】

活動は日本とドイツの両国で行われ、自殺予防相談団体やNAJU(環境保護活動継承者たちを育てる事を目的とする団体)など様々な団体を訪れました。それぞれの訪問先で、政治や経済、環境など多くの分野にわたるテーマについてディスカッションを重ねました。田宮さんはその中で、「1人の力を悲観せず、まず自分が動く」ことが大切だという答えに辿り着いたそうです。また、ボランティアに対する意識も変わりました。ドイツではボランティアが「社会の空白(足りない部分)を埋める」という意識が強く、日本よりもボランティアが浸透していると感じます。日本では、ボランティアは善意ある人がやるものと捉えられがちです。しかし、様々なボランティア活動を行う人々と出会ったことで、ボランティアは社会のためであり、自分のためでもあるということに気付かされました。

【新たな世界へ!】

この事業に参加する前は、選考に通るか不安でも悩んだそうです。ですが実際に参加して、貴重な経験をすることができました。そして、この事業に参加したことで全国各地に同じ志を持つ友達ができ、「その友達に会いに行くついでに自分の知らなかった日本の地を巡りたいと思っています。そして、これからも新しい世界に飛び込んで行きたいです」と声を弾ませて語ってくれました。



わたしが発見しました♪

私も同じ学科に所属しているので、田宮さんが普段頑張っている姿をいつも傍で見えています。大学だけでなく、学外にも学びの場を自ら求める姿勢に心が動かされました。

初澤 汐里(独2年)